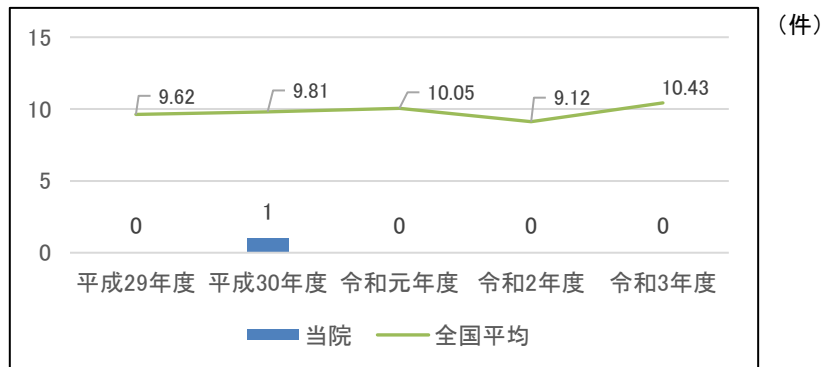


7 臓器移植件数(心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓)

○項目の解説

臓器移植を行える施設は限られています。そのため臓器移植は、高度な医療技術、経験のある医療職、十分な設備を持つ国立大学附属病院の社会的責任の一つといえます。腎移植はすでに定着した技術ですが、心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の移植はまだまだ難しい問題が多々あります。心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の臓器別の件数は少ないので、ここではこれら五臓器の合計数を示します。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院の肝移植施行の推移ですが、平成23年度に、当院で初めての生体肝移植及び再移植を合わせて2例行い、その後も平成25年度、26年度、28年度に2例ずつを行い、平成30年に1例を行っています。平成29年度、そして令和元年度以降は候補者がおらず移植は行っておりません。日本全国の傾向見ても生体肝移植は伸び悩んでおり、北海道においてはそれが顕著な傾向にあります。脳死移植への過度な期待があったり、肝硬変の好発年齢である50代、60代の患者に対して、ドナー候補となる20代、30代が働き盛りであるため、実際にドナーになるのが難しい現状がみられることや、胆道閉鎖症の好発年齢である1～2歳の小児人口が減少していることも挙げられます。

○定義

当該年度1年間の、心臓・肝臓・小腸・肺・膵臓の移植件数です。

同時複数臓器移植の場合は1件として計上します。

○算式

実数